

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	147-2 犬猫不妊(去勢)手術補助事業(狂犬病予防経費)	会計	01	一般会計
		款	04	衛生費
		項	01	保健衛生費
基本 施策	14 感染症などの流行、拡大を防ぎ、食の安全を確保する	目	01	保健衛生総務費
		細目	239	保健衛生事務経費
行革大綱の重点事項番号		細々目	03	狂犬病予防経費
担当部課	コード	100100		担当者 氏名
	名称	生活環境部市民生活課		
		連絡先	22 - 9638 (内線) 2515	

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	犬猫の飼養者及びその付近住民	※対象件数
成果(どうする)	・犬猫の適正な飼育の推進 ・飼育困難により放棄されることで発生する野良犬、野良猫の抑制	
根拠法令・要綱等	犬及び猫の不妊手術費等助成金交付要綱	
開始年度	平成 16 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H21 事業 内容	不妊手術又は避妊手術を受けた登録済みの犬及び猫の飼養者に対し経費の一部を助成する。 犬: 1頭に対して、4,000円 猫: 1匹に対して、3,000円	
社会情勢 の変化等	不必要な繁殖を防ぐことで、責任を持ってペットを飼養する環境を整える。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動 指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
	犬の不妊(去勢)手術に助成した件数	件	目標	100	目標	100
			実績	81	実績	91
	猫の不妊(去勢)手術に助成した件数	件	目標	250	目標	250
			実績	322	実績	300

成果 指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
	犬・猫の不妊(去勢)手術に助成した件数	捨て犬、捨て猫の発生を防止し、適正な飼育を目的としているため。	件	目標	350	目標	350
				実績	401	実績	391
				目標		目標	
				実績		実績	

投入 コスト	H20 決算	H21 決算	H22 当初予算	H23 当初要求
直接事業費計(A)	1,300	1,300	1,300	1,300
A の 財 源 内 訳	国庫支出金			
	県支出金			
	地方債			
	その他	1,300	1,300	1,300
一般財源	0	0	0	0
事業投入人件費(B)	0.2人 1,440	0.2人 1,440	0.2人 1,440	0.2人 1,440
フルコスト(A)+(B)	2,740	2,740	2,740	2,740

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	法律で実施が義務付けられている事業	
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事務事業	
有効性	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	○
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対称者以外の第3者にも利益が及ぶ事業	
達成度	国や県、民間が同様のサービスを提供している。	
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している。	
効率性	事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない。	
	【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】	○
改善策	ペットを生涯のパートナーとする高齢者が増え、飼養環境を維持するために不必要な繁殖を望まない考えが浸透してきている。	
	財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響は大きい。	
昨年度の取組状況	【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】	
	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	
改善策	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高	
	サービス水準や対象を見直す余地がある。	
昨年度の取組状況	当初設定した計画を 80%以上100%未満 実施している。	【計画に遅れが生じている場合、改善策】
	予算の繰越の有無 無	
改善策	【予算の繰越がある場合、繰越の種類】	
	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
昨年度の取組状況	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。	
	【事業名】	
改善策	受益者負担を求めることができる事業である。	
	全体コストにおける負担構成は適正である。	○
昨年度の取組状況	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	
	昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	適正飼育を促進する意味では有効と考えられる。しかし、本来は飼主の責任によるものであることから、意識向上のための啓発を行い、本事業の廃止・継続を検討する。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 適正飼育のための制度利用の啓発を随時行った。

今後の方向性(Action)

評価者氏名 (担当課長)	奥永悦子
事業の方向性	【方向性】 現状維持 【理由】 犬・猫の繁殖による野良犬や野良猫の増加を抑止し、市民が快適に暮らす生活環境を保つために今後も継続する。
現時点における課題、その他	飼い主のモラル向上のため、啓発の充実が必要である。
課題、その他に対する改善策 (いつまでに、何を、どうする)	平成22年度において、広報紙や行政情報番組などを活用した情報提供や啓発を行うとともに、犬の登録時や狂犬病予防注射などの機会に啓発を行う。